

冬の寒さが和らぎはじめ、日ごとに、日差しに暖かさが増し、早春の到来を近しと感じるこの佳き日に、御来賓並びに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに大阪府立大冠高等学校第三十七回卒業証書授与式を挙行できますことは何にもまして慶びとするところでございます。

ただいま、卒業証書を授与されました大冠高等学校 第37期 263名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。大冠高校を代表し、皆さんのご卒業を心からお祝い申し上げます。

保護者の皆様には、本日、ご卒業の日を無事にお迎えになられましたお喜びは、いかばかりかと拝察いたします。心よりお祝い申し上げます。また、ご入学以来、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りましたこと、改めて感謝いたしますと共に、お礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

また、本日は、ご多用中にもかかわらず、本校学校運営協議会委員 高槻市立第10中学校校長 宮崎 義之様を始め、37期生の出身中学校の校長先生方、本校PTA実行委員の皆様等、多くのご来賓の方々にご臨席賜りましたこと、高い所からではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、37期生の皆さん、改めて、卒業おめでとう。

思い起こせば、中学校2年生の春、世界を震撼させた新型コロナウイルスが報道され、瞬く間に、身近なところで感染が拡大し、緊急事態宣言の発令、全国の学校が臨時休校となりました。感染防止対策として、三つの密を避けるため、家族や友達でさえ、手を伸ばしても届かない距離をとり、食事は(互いに向き合わず、会話もしない)黙食、コミュニケーションの自由がなく、おしゃべりや悩みの相談も気軽にできない中、いつ自由な活動ができるようになるのか、高校生になればもっと活動できるのか等の思いを馳せながら受験勉強に励み、見事、本校に合格されました。入学直後、色々な中学校から集まった級友とマスク越しに自己紹介、相手の表情を十分に読み取れず不安を感じた人、周りを気にせずに入懐っこさで、クラスのムードメーカーになっていた人等、色々な個性があつまった37期生。1年生の秋の遠足の振返を赴任当初に読ませてもらいました。そこには、『みんなで団子や祇園四条の抹茶のアイスクリーム、昼食を食べたこと。植物園で、池の紅葉をみんなで見に行けたこと。八坂神社で友人が大吉を引き当てていたこと。バスの乗り場がわからなくて、みんなで歩きながら話し合えたり、楽しかった。』『自分達で色々なことを決めれて、場所(そこ)に行けたことが良かった。』等、自分達で遠足をプランニングし、初めて訪れた場所でも、事前に調べたことや現地の人や通りすがりの人に色々聞きながら、楽しむことができ、高校生らしい、『生きる力』を発揮していたことを感じました。大冠高校では、私より1年先輩の皆さん、2年生の春からのおつきあいでした。正門、廊下、いたるところで元気に挨拶を交わし、授業見学のときには、少し畏(かしこ)まった時もありましたが、次第に普段通り、真剣に先生方の説明を聞き入り、また、国語や英語の授業時のペアでの句読点読みも自然体で、また、睡魔に耐えながらプリントへ記述していたり、皆さんの様々な学びの姿勢を見て、ここぞという時の逞しさを感じていました。青い空、エメラルドグリーン的大海、『地球は丸かった』って感じた展望台等、大自然を満喫した沖縄修学旅行では、委員を中心に全体レクレーションの企画や運営を進め、楽しいひと時を共に過ごさせていただきました。3年生では、体育祭・文化祭等では、団やクラスをまとめ上げ、一丸となってより良い作品を創り上げようと奮闘している場面も見せてもらいました。大冠高校の伝統に、皆さんの活動成果をしっかりと刻み込みましたね。

でも、そうした活動のすべてがうまくできた訳ではなかったですね。先輩や友人の言葉に、うまく出来ていない自分を知り、『どうすればいいの』って不安を抱き、時には、自信を失ったこともあったのでは。そのような思いを抱いたとき、家族や友人に、担任や保健室の先生等、誰かに相談できたとき、安堵感から自ずと素直な気持ちを語り、縛れ(もつれ)を解消できたときもありました。『言葉でしっかり伝えることの大切さ』、その一方で、『伝えることの難しさ』を知り、相手を思いやることができ、逞しく成長した今日を迎えることができたのではないのでしょうか。

これから訪れる皆さんの未来、2年後は、二十歳の集い。20年後(2045年)、所謂、シンギュラリティ(技術的特異点)。人工知能(AI)の性能が人間の知能を上回ると見込まれる瞬間点。社会構造の変化や異常気象等の課題が多く現れる現在、技術革新、社会基盤の変化はより進み、今後訪れる社会はますます予測が困難で、多くの課題に直面させられることになりそうです。そうした課題に直面したとしても、皆さんには、この3年間、大冠で培った、『互いの思いを伝え合う、理解しようとする力』を秘められています。決して一人じゃない、苦楽を共にした仲間や、見守り応援してくれる家族、

この3年間関わっていただいた教職員がいます。フ〜っと深呼吸、臉(まぶた)を閉じて大冠高校での苦楽を思い出してください。そうすれば、課題に立ち向っている仲間が見え、互いの文化や慣習、価値観を活かしながら解決策を見出すことができるでしょう。自他への思いやり、引き続き、大切にしてください。

本日、大冠高校を旅立つ37期生への言葉、メジャーリーグで活躍されている大谷翔平選手の取材記事より

『 徹底した準備に裏付けられた自信はプレッシャーに潰されない。

大事なことはやめないこと。毎日、同じ時間に同じことを続ける。

自分の夢、向き合った未来に、どれだけ準備をするかが肝心。 』

各自の将来の立ち位置を確固たるものにするためにも、一日一日を大切にしてください。昨日の自分よりも成長した今日の自分のために、文句や言い訳でごまかすのではなく、今できることを探り、日々行動してください。

明日からは、一人ひとり異なる進路を歩むことになり、本校に立ち寄る機会は少なくなりますが、昨日、同窓会への入会を済ませた皆さんには、大冠高校の先輩として引続き、本校への応援をお願いします。後輩たちの部活動指導や、進路説明会の講師として、時には、近況報告、悩み相談等、本校に立ち寄って下さい。教職員一同、皆さんが、それぞれの進路先・就職先でご活躍されることを期待し、応援しています。また、皆さんから頂く近況や活躍ぶりについては、先輩の体験談として、後輩や本校教職員に披露し、引き続き、本校が発展するための潤滑油として紹介させていただきますので、よろしくお願いします。

さあ、旅立ちの時がきました。卒業生の皆さん、まずは、4月から新たな環境で、しっかりとスタートできるよう準備し、奮闘・ご活躍されることを期待しています。

最後になりましたが、本日まで様々なご支援・ご協力をいただきました地域の皆様、同窓会の皆様、保護者の皆様を始め、ご関係の皆様に心よりお礼を申し上げ、第37回卒業証書授与式の式辞といたします。

令和7年2月28日 大阪府立大冠高等学校長 重松 良之